

中学校第2学年 内容項目：相互理解、寛容

教材 ジコチュウ

出典「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」(光村図書)

主人公である「僕」は、放課後に班で作業をしている。自分の分担が終わり、帰ろうとする佐々木に対して「ジコチュウ！」と言ってしまう。後日、佐々木から手渡された手紙には、母の入院により、弟と妹の面倒をみなければならず、時間的なゆとりがないこと、そして同情されたくないからやるべきことはやる、という思いが書いてあり、「僕」は相手を理解しようとしていなかった自分に気付く。



小学校第4学年 内容項目：友情、信頼

教材 絵はがきと切手

出典「小学道徳 生きる力 4」(日本文教出版)

転校した仲よしの正子から、ひろ子に料金不足の絵はがきが届く。ひろ子は、正子に料金不足であったことを教えるかどうか迷うが、正子と友達として過ごしてきたこれまでのことを思い出し、手紙の最後に書き足すことを決心する。正子なら「きっとわかってくれる」と、友達を信じることの大切さに気付く。ひろ子は手紙を書き始める。



小学校第6学年 内容項目：相互理解、寛容

教材 ブランコ乗りとピエロ

出典「小学道徳 生きる力 6」(日本文教出版)

大王を招いてのサーカス初日、ブランコ乗りのサムは、リーダーのピエロの注意も聞かず、持ち時間を超えて演技を続ける。ピエロは、サムに腹を立てたが、演技を終えたサムの疲れ果てた姿を見て、サムが誰よりも真剣に演技に向き合っていることに気付く。サムのことを理解し、許したピエロは、サーカス団のために力を合わせていこうと諭す。サーカス最終日、サムとピエロは共演し、大成功で幕を閉じる。



小学校第4学年 内容項目：親切、思いやり

教材 心と心のおくしゅ

出典「小学道徳 生きる力 4」(日本文教出版)

はやとは、学校の帰り道、大きな荷物を持って歩いているおばあさんと出会い、声をかけるが断られる。おばあさんは歩く練習をしていることを母から聞いたはやとは、坂を上るおばあさんを再び見かけたとき、声をかけるか迷いながらも、後ろからそっとなついていくことにする。はやとは、坂を上り切ったときのおばあさんの笑顔を見て、相手のことを考えた親切の大切さに気付く。

